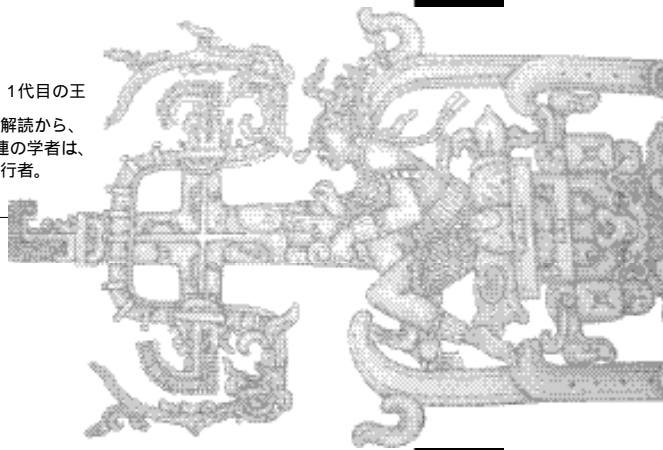


時間の旅人 パカル・ヴォタン マヤ古代王朝11代目の王

1952年発見された、この石棺と碑銘の神殿の文字の解読から、マヤの叡智がよみがえった。空間認識しかできないソ連の学者は、宇宙飛行士だと考えた。パカル・ヴォタンは、時間航行者。



第2回

# 虫の知らせから、わかる 「時間は、シンクロニック・オーダー(1)」 「時間は、テレパティック・オーダー(2)」

柳瀬宏秀の「コスミック・ダイアリー」  
宇宙の奥奥に潜った真実

## マヤ暦の叡智えいしによって、誰でも、 新しい時間に旅立っています

「虫の知らせ」を信じますか？ 日本人の9割以上の人が、信じると思います。では、どうして「虫の知らせ」を信じるのですか？

「虫の知らせ」という現象を信じるといことは、離れていても、親しい人間との間では情報交換できるといことを信じているということ。

いや、信じているのではなく、ほとんどの人が「虫の知らせ」を体験したことがあり、体験から「虫の知らせ」という現象がほとんどの人に起きることを「知っている」といっています。

もし、そうだとしたら、その現象を科学的に追求するのが、人間の叡智であり科学そのものの目的なのでは？

そして重要なのは、虫の知らせという誰もが経験する事実として存在する現象を、「信じる、信じない」という分野に、閉じ込めてしまっていること。そうしてしま

っている自分と、社会のスタンスを明確に意識することが重要なことです。

「時間を時計だ」と思って、時間を2次元の世界に閉じ込めているのと同じように、虫の知らせを「信じる」という言い方をするこ

虫から情報を取り、長老に



「虫の知らせ」という言葉が生まれるための背景には、日本人が虫からさまざまな情報を得ることが普通にできていたということがあったと思います。それだけ、虫を見、虫の変化を知り、虫のこころ

を感じていました。農業をして作物を育てていた人は、草や虫からさまざまなことを学び、叡智を身につけ、長老になっていったのです。

マニュアル通りの近代農業をすることによって、人は、虫から情報を取れなくなりました。

この失ったものの大きさに震えます。つまり、人は叡智を失っただけでなく、この地球上で生きるうえでの、自然のリズムを失ったのだと言っているのかもしれない。そして、そのことが環境破壊を生んだのです。

### セミナー参加者の感想です

第1日目のセミナーを聴いたときの衝撃は今でも忘れません。私の人生を大きく変えてくれたものです。



柳瀬宏秀 やなせひろひで  
環境意識コミュニケーション研究所代表。20年間、電通にて、コピーライター、CMプランナー、映像プロデューサーとして働き、4年前に退社し、現職。「京都、満月祭り」「満月の十三祭り」を企画プロデュース。仁和寺や上賀茂神社、平安神宮などで、喜多郎、UA、BEGIN、梅若六郎など、賛同するアーティストと、祭りの空間を生み出す。

「環境意識」「月のおもてなし」「共振のコミュニケーション」をテーマに、企業コンサルタントやセミナー、研修、講演なども行っている。ホームページは、<http://www.async.ne.jp/cosmic/>

コスミック・ダイアリーは宇宙の流れそのもの  
それと共に共振し、すべてと調和していくことが人の本来の生き方  
時間のとらえ方が大きく変わったときにすべてのことがまったくちがう別の世界が見え始めました。  
自分が地球と繋がりが、  
宇宙と繋がっていることを感じ、  
今日、天から舞い降りてくる雪を見ても宇宙を感じ、  
月や太陽、星の輝きや吹く風にも宇宙を感じ、山をみても  
海をみても、木や花や草や虫や鳥や、  
道ばたの石ころや土にも、  
花瓶の1輪の花にも、落花生やさつまいも、1粒のお米にも  
宇宙を感じられる自分……  
こんな素晴らしいことはないです！  
すべてに感謝です。

河村 泰江さん 千葉県  
KIN180 白い宇宙の風

1 シンクロニック・オーダー……シンクロシティ（同時性・偶然の一致）が起きる秩序性のこと。  
2 テレパティック・オーダー……テレパシー（言語その他の感覚的手段によらずに、ある人の精神から他の人の精神に、思考・感情・観念などの印象が伝達されること）が起きる秩序性のこと。

